

議 長  
確認印

総務常任委員会会議録

1 日 時	開会 平成 29 年 9 月 28 日 13 : 29 閉会 平成 29 年 9 月 28 日 14 : 29
2 場 所	委員会室
3 出席委員	鈴木茂、七宮広樹、藤田一男、割貝寿一、吉田広明、下重義人、鈴木孝則
4 欠席委員	なし
5 出席要求者	なし
6 職務出席者	議長 大縄武夫、議会事務局長 益子和憲、書記 松本静香
7 説明員	健康福祉課長 藤成寛味 高齢者支援係長 鈴木サキ子
8 付議事件	第 1 介護保険事業について
9 議事の経過	<p>副委員長（七宮広樹）開会 委員長（鈴木 茂）あいさつ 第 1 介護保険事業について 委員長：健康福祉課長に説明を求める。 健康福祉課長が①介護サービスについて、②地域包括支援センターの役割等、③介護保険事業全般について資料等により説明する。平成 30 年度から 3 年間の介護保険事業計画（第 7 期）を策定中である。</p> <p>委員長：質疑はあるか。 藤田委員：いきいき健康教室や高齢者サロンの参加したい場合はどのようにするのか。 健康福祉課長：健康福祉課（高齢者支援係）に申し出れば計画を作成する。当初は保健推進員から申し入れがあって始まった。保健推進員からの申し出がよいと思う。 藤田委員：費用はどれくらいか。 健康福祉課長：費用は特にない。お茶菓子等は自分たちで出すことになる。 委員長：いきいき健康教室は以前 1 か所で行っていた介護教室とは違うのか。 健康福祉課長：現在は楽しく元気アップ教室として行っている。 七宮委員：社会福祉協議会で以前デイサービスを拡充する計画があったが、現在の状況はどうか。 健康福祉課長：車田病院やのどかで行っているのであれば、町は状況を見ることにした。社協の和室を改築しデイサービスのスペースを広げてはという声もある。 下重委員：介護職員の不足が心配であるが大丈夫なのか。 健康福祉課長：試験を受ける補助制度があるが、それだけでは職員の確保は難しい。 委員長：包括支援センターは 3 名で運営しているのか。 高齢者支援係長：3 名で運営している。 委員長：包括支援センターの監査はどうしているのか。 健康福祉課長：社会福祉協議会で監査している。補助金については町の監査となっている。</p>

吉田委員：高齢化率予測で平成 37 年度の 41.9%であるが、人数はどのくらいなのか。受け入れ施設は対応できるのか。

藤田委員：人口が減少してくるので人数的にはそんなに変わらと思うが。

健康福祉課長：人数的にはあまり変わらないと思われるが、統計で出ているので後日数字をお知らせする。

割貝委員：町長の公約で特別老人ホームを作ると言っているが、介護保険事業計画（第 7 期）で入れるよう計画を指示されているのか。

健康福祉課長：まだ計画はいれていない。今年 2 月に埴町高齢者調査を行っている。その中のアンケート結果を基にすると必要がないという結論にもなってくる。今後町長と話を詰めていくことになる。

割貝委員：施設（町長公約の特老）を作るうえで介護保険料の関係も出てくるので、町民にアンケートを取ることも必要となる。その考えはあるのか。

健康福祉課長：今はまだない。

委員長：2 月の埴町高齢者調査は毎年やらないのか。

健康福祉課長：介護保険事業計画を策定するためで 3 年に一度である。

委員長：社協ヘルパーの不足で募集してもいない。サービスができなくなる。どのように考えているのか。

吉田委員：今後、介護従事者を確保できる見込みはあまり多くないと思う。方向性を具体的に決めておかないとあとで大変になる。

健康福祉課長：ヘルパー（介護従事者）の確保は労働条件である。条件がよい施設に移ってしまう。非常に難しい問題である。国のレベルで考えてもらいたい。

委員長：条件とは賃金の問題である。

健康福祉課長：賃金以外でも、労働時間（夜勤等）の問題もある。

七宮委員：矢祭町では訪問入浴介護はしていない。埴町の社協入浴車が行っている。埴町民のサービスがおろそかにならないか。4 町村連携はどうなのか。

健康福祉課長：社会福祉協議会どうしの話し合いであると思う。

委員長：他になければ健康福祉課で課題として考えていることがあれば何う。

健康福祉課長：新しい総合事業が始まり職員が足りない状況である。

吉田委員：介護士不足を海外からの支援でまかなう話は国から来ているのか。外国人を使わなと難しい。

健康福祉課長：まだ話は来ていない。予防介護を充実させていきたいので職員を増やしてもらいたい。

委員長：保険料は今後増額となっていくのか。利用者が増えていけば当然上がると思う。

健康福祉課長：支える分が少なくなると上がる可能性はある。

委員長：利用者が増えていけば当然上がると思う。そのほかなければ説明員退席願う。

（説明員退席）

委員長：説明を受けて議会として討議することがあるか。今後の課題は、人手不足であるということ。

藤田委員：各地区の保健推進委員に活動をお願いする。

委員長：高齢者サロンに参加する人はいつも同じである。参加する人は元気な人である。熱心な推進員がいるところは集会所などで何度か行っている。介護予防も保健推進員に活躍を願う。推進員の活動が活発な町は健康長寿であると長野県松川村（推進員の人数が埴町の3倍いる）の研修で聞いてきた。

七宮委員：はなわスポーツクラブに委託してはどうか。

吉田委員：介護職員が少なくなることが大きな問題である。町職員並みの待遇が必要となっている。外国人を採用することも考えるべきである。

鈴木孝委員：知り合いの親戚の人（外国人）が徳島県の介護施設で働いている。単純な労働であれば資格はいらない。単純労働でも同じ賃金を支払うことになり日本人を採用してしまう。国で対策を考えるべきである。

委員長：他になければこれで会議を終わる。

副委員長：閉会

埴町議会委員会条例第27条の規定により署名する。

平成 年 月 日

総務常任委員長